

【山崎主宰の俳句】

ささら雨

山崎 聰

体内を水かけめぐる二月かな
半眼でものを思えば凍てにけり
生者死者しどろもどろに雪が降る
飛鳥はとおし侘助ふたつみつよつつ
きようひとり逝き大空から雪片
雪降って降るみちのくも奥の奥
鳥帰りそのしんがりの天馬かな
おおかみに父性のもどりささら雨
木の芽風戦争がそぞろあるきして
饅頭を食い日脚伸ぶなど思う